

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670400155		
法人名	医療法人健康会		
事業所名	グループホームぬくもりの里		
所在地	京都市下京区七条御所の内15		
自己評価作成日	平成30年3月17日	評価結果市町村受理日	平成30年5月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&jigyosvCd=2670400155-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	京都市下京区木屋町通上ノ口上ル梅湊町83番地1「ひと・まち交流館 京都」1階
訪問調査日	平成30年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域医療を長年にわたり行ってきた医療法人のグループホームである。地域の人々と家族と共に、認知症のお年寄りが、穏やかで楽しい生活になるように、努めています。歯科や歯科衛生士とも連携し、認知症のお年寄りにとっての口腔ケアの大切を理解し実践している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地に建てられた京都市内で第一号のグループホームは20年の歴史があります。利用者職員は創設時から共に過ごしている方もいますが、利用者は此処2~4年で入れ替わり、全体的にADLが上がってきています。医療との連携の良さと早い目の受診をしています。利用者はリビングや寛ぎスペースでスタッフと一緒に話をしながら創作物を作ったり、居室で書き物をするなど思い思いに過ごしています。ゆかた祭りや着物撮影会は着物を着て化粧をするなど、モチベーションの上がる取り組みで素敵な笑顔の写真が飾られていました。着付け、文化祭、地域のまつり、食事は女性会の地域ボランティアとして参加をして貰っています。また近隣のボランティアが毎月抹茶でお茶会を行う支援を利用者は楽しみにしています。理念や運営方針にそった地域と共に支えていく取り組みになっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	めくもりの里の思いや考え方を、業務会議を通して伝えている。地域に住む方が入居していることが多く、入居したのちも、関係を継続して地域の一員として過ごせる環境を大切にしている。	理念は「個人の自由と尊厳を大切に、その人らしく生き生きとした生活ができるようにつとめます」とし、開設時の職員で作り、家庭や地域の人たちと一緒に支えていき、利用者に寄り添って行く姿勢を大切にしていきたいとしている。年度当初の会議やカンファレンスで振り返り、楽しく暮らすには元気で過ごせるようにと健康管理に重きを置いている。	ホームページには理念や運営方針を掲載しているがパンフレットが作成されていず、地域の方に事業所の目指す方向や取り組みを知って貰う為にもパンフレットの作成が望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し、地域のお祭りや、地蔵盆や運動会などにも参加している。また、食事会や、行事なども女性会を通じて地域ボランティアとして参加して頂いている。	回覧板や運営推進会議で地域の情報を得て、地蔵盆や西大路まつり、すこやか学級、敬老会など地域の行事に参加している。地元に住んでいた人達は馴染みの方や知り合いとの出会いがある。行事や食事会に女性会で地域ボランティアの参加がある。開設時から毎月近隣ボランティアが開催するお茶会は生活に潤いを得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人が取り組んでいる地域にむけた講座などにも参加したりしてはいるが、グループホームとしての取り組みは希薄であることは否めないと思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	女性会や民生委員や地域包括支援センターの参加がある。地域の取り組みやホームの現状などを話し合っている。	会議のメンバーは女性会、民生委員、地域包括支援センター職員で構成し、ホームの現状などや地域の取り組みを話し合っている。消防分団との連携や地域の避難訓練が議題になり、訓練への参加や消防分団に来て貰い避難訓練を行った。ホームの近所に住んでいる消防分団との連携もでき、心強い言葉かけをして貰っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には区の担当者は以前は参加していたが、今年度は参加していない。来年度はきちんと参加してもらえよう関係をつくる。	行政の担当者とは常に相談できる関係であり、運営推進会議の議事録を説明して渡している。管理者は下京区介護サービス担当者会議の内容を見て年に数回出席をして情報を得たり、協力関係が築けるようにしている。区の担当者に運営推進会議に出席して貰えるように働きかけを続けている。	

京都府 グループホーム めくもりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不適切ケアがないかなど、具体的な事例や事象を通して、よりよいケアになるように取り組んでいる。	法人の老人保健施設担当部署で「高齢者の擁護」「身体拘束」の研修に参加し、ホームの業務会議で欠席者に伝達をしている。玄関はチャイムが鳴るように鍵をかけずに生活している。センサーマットを家族や後見人と話し合い、転倒を繰り返している2名の方に使用している。記録を取り報告しているが、無くしていく方向で考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人が主催する虐待防止の講義の参加や、その伝達講習を通じて、定期的な学びの時間がもてるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人主催の講義に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に懸念されることや、疑問に思われることなどが無いかなど、話し合いながら説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や利用者が日常的に意見を言える関係性は築けていると思うが、個々の関係性に留まっており、必ずしも全ての意見や、思いに寄り添い、運営に反映されているとは言えないと思う。	日常的に面会に来られている方はその都度個々の意見を聞き、(近隣の家族2人、遠い方2人、後見人3人、申請準備中1人)毎月お便りを送り、体のことなど気になっていることは意見を貰っている。個々の意見はあるが、運営に関する意見は聞きとれていない。家族から聞いたことは管理日誌の特記事項に記録している。	昨年度からの課題であるアンケートの実施で家族や後見人の運営への意見を聞きとられることをお勧めする。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や要望は、業務会議などを通じて対応している。	職員の意見は朝夕の申し送りや業務会議、カンファレンスで聞いている。日常的にも、意見は聞いているが、職員へのアンケートはしていない。会議の欠席者には議事録を配布し説明をしている。職員の提案で、ベッドの選択は利用者が自分で立ち上げられる事を目標とし家族と相談しながら進めている。年1回個人面談を実施している。	

京都府 グループホーム めくもりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に職場環境や条件については、臨機応変に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修へ行くなども、難しい状況である。ケアスキル向上を図ることが困難な状況である。法人内の研修には参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同区内のグループホームとは、交流はない。数年前は数ヶ月に1回、会合を開いていたが今は行っていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネジャーより、状況を詳しく聞くと共に、本人が、無理なく生活がはじめられるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望と、ホームで取り組めることなどを明確にしながら、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接を通じて、他のサービスの方がよい場合は、担当ケアマネジャーと連携して場合によっては、他のサービスをすすめることもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ家に住む人として、支えあう関係を築けるように取り組んでいる。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に、健やかで穏やかな生活が成り立つように共に、取り組める関係をつくっている。		

京都府 グループホーム めくもりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の訪問時は、また訪ねて来ようと思ってもらえるように、もてなすようにしている。	遠い親戚の人や友人、地域の老人会、健康会、女性会の馴染みの人が訪ねて来ている。馴染みの美容院や知人にお墓に連れて行って貰う人、家族と毎週家に帰っている人がいる。雑巾やお人形作りなどの縫物やメモ帳作り、塗り絵、家事など好きなことの継続支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に取り組む作業を通じて、同じ家に住む人という関係性が出来き、お互いに支えあう関係性が、出来るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要に応じて関係各所とともに協議している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向を聞く機会を、集いや日常の会話の中から、聞きだすようにしている。	利用者の意向は集いや日常の会話で聞くように努めている。「教えて下さいシート」を利用者や家族、知人、ケアマネジャーに渡して記入して貰っている。書いて貰ったことは集いの話題のきっかけになり、話題を広げている。「シート」は管理日誌に挟み職員で共有出来るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、担当ケアマネジャーより情報をもらいながら、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察等は、記録して、ケア方法や現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケースカンファレンスには、家族が参加することはないが、意向は事前に聞き、月1回の会議に臨んでいる。司会や、歯科衛生士にも情報を提供してもらっている。往診医の会議の参加は困難なため、会議で出た疑問などは、往診時や診療所へ出向くなどして、情報を集めている。	職員全員が出席するカンファレンス兼サービス担当者会議で毎月利用者全員のモニタリングを行っている。会議の前に医療情報や利用者・家族の希望も聞き、利用者の状態の変化時に再アセスメントを行い、介護計画を見直ししている。介護計画の様式を見直し、更新の方も多く様式を揃えていく方向である。	

京都府 グループホーム めくもりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子がわかるように記録すると共に、気づいたことや工夫が書けるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟に対応しているようにしているが、主に管理者が対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の人々と共に、閉じこもることなく、地域活動に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医にかかる場合は、家族に付き添いをお願いしている。往診医は同法人の診療所から、月4回来てくれる。また、健康相談など随時聞いてくれる。	入居時に希望のかかりつけ医を訊ね、全員が協力医療機関の往診を月1回受けている。往診の前に受診者の情報を医師にファックスで送っている。訪問看護師は月4回来所し、健康チェック表を作成し、備考に様子を書いている。歯科医師や歯科衛生士の定期的な訪問で希望者には治療や指導が行われている。緊急時対応は運営規程に明記している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の訪問看護ステーションより、月4回の訪問があり、健康チェックや健康相談に応じてくれる。往診医へ報告するようアドバイスされたり、皮膚疾患への対応など、受診に至らないよう細やかな配慮が出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院するような事案は、管理者が出来るだけ関わり、家族と共に状況把握して、入院に伴うダメージを和らげるように努めている。また、場合によっては何度も入院先へ訪問し、早期退院をはかっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化し、終末期の判断が出た場合は、ホームで出来ることについて、家族と話合っている。看取りはしないので、どの段階で病院へ運ぶかなども、具体的なことも決めて対応している。	入居時に「重度化した場合の対応に係わる指針」に沿って説明をし、同意を得ている。どの段階で病院へ行くのか、など家族と具体的なことを決めて対応している。重度化しないように、日常のきめ細やかなケアで元気に生活出来るようにし、変化のある時は早期に受診している。	

京都府 グループホーム めくもりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人は救急救命研修を毎年5回以上開催しているため、受講を義務付けている。ホームについても受講する予定である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定避難訓練を行っている。また、災害時の避難訓練も行っている。備蓄も用意しており、少しずつでも整備できるよう取り組んでいる。	避難訓練は年2回行い、夜間想定火災訓練は利用者も一緒に行い、消防署の指導も得ている。風水害の災害訓練では、避難場所になっている法人の老健まで歩いて避難した。職員に救急救命の受講を義務付けており、下京区の防災訓練にも参加している。今後は地震の訓練をして行く予定である。備蓄は水・食料品・調理器具・ブルーシートなど3日分用意して非常時に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれが、その人らしく暮らせるように配慮している。丁寧さを心がけている。	法人の老人保健施設担当部署で「接遇」「プライバシー」の研修を受けてホームの業務会議で伝達をしている。入浴時や排泄時の誘導に気をつけ、利用者のことを大きな声で話さない、居室への入室時はマナーを守るなど、理念に沿ったケアを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	押し付けにならないよう、やりたいことを自由に出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	趣味ややりたいこと、やってみたいことを聞きながら、実現できるように努めている。		

京都府 グループホーム めくもりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選べる人は選んで着ている。選ばない人は、その人らしい装いが出来るよう、支援している。例えば、こんな髪型にして欲しいと、昔の写真を見てもらって散髪してもらうこともあった。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員全員がメニュー作りに取り組んでおり、利用者から希望や要望を聞きながら作成している。また、出来るだけお手伝いをしてもらい、皆で食事作りをしている。	利用者から食べたい物や得意な料理を事前に聞き、旬の食材を使い1週間毎の献立を作成している。野菜を切る、お盆を拭くなど一緒に食事作りをしている。食事制限や別メニューが必要な方にも調理時に気を配り楽しんで食べられるようにしている。外食は近くの中華料理や喫茶店によく行き、寿司は出前を取っている。暦の行事に合わせて行事食を準備している。誕生日ケーキやおやつは手づくりが多く、利用者と共に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	マニュアルを作成し、時間ごとに水分補給を行い、脱水予防に努めると共に、低栄養にならないよう把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医、歯科衛生士の助言を受けながら、認知症のお年寄りにとっての口腔ケアの大切さを、理解し実践している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくオムツは使わない、使う場合も最小限にすると共に、誘導など状況に応じた取り組みをしている。	トイレでの排泄を基本として、毎月のカンファレンスで利用者個々の排泄の状況を確認・共有して自立に向けた支援をしている。家で紙パンツで過ごしていた人が早い目の誘導で布パンツとパッドで過ごせるようになっていく人もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には、乳製品を必ず入れるなどの工夫もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間の入浴は行っていないこともあり、必ずしも希望に沿った支援が、出来ているとは言えない。	入浴は週2～3回で午前中に行っている。感染予防のために毎朝半数は洗浄、清拭をしている。入浴嫌いの方には好みの時間帯を見計らって入浴して貰ったり、同じ服を着ないと不安になられる方には似た服を用意して着替えて貰うなど、工夫している。柚子湯を楽しんで貰っている。	

京都府 グループホーム めくもりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人、一人にそった、休息のとり方があることをふまえて、取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服一覧表を作成し、一括して管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれが、役割を持って生き生きと生活が出来るように配慮している。創作や工作などの趣味活動や学習(計算・漢字等)を毎日取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々散歩は気軽に行けるように取り組んでいるが、買い物や外食は限られた人になってしまっている。	日常的な散歩は公園や近隣の幼稚園、町内周辺へ桜・梅見物に出掛けている。皆がサクラを見られるようにタクシーで天神川四条にいき五条まで車椅子や歩いて花見をしている。車椅子やタクシーで行ける所は皆で出掛けることはあるが、数回に分けて出掛けていることが多い。南病院まで出展した作品を見に行き外食を楽しんでいる。 喫茶店は定期的に、女性会の方も一緒にいつている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持ちたい人は、持って買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を取り次いだり、はがきを買ったりするのなど、必要に応じて対応している。		

京都府 グループホーム めくもりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広くはないホームであるが、出来るだけ穏やかに安らげる空間作りに努めている。音にも配慮し、静かな訓間を提供したいと思っている。	居室前の2ヶ所の空間にテーブルと椅子を置き、利用者が寛いで過ごせるようにしている。リビングは1人・2人・3人がけのテーブルを配置し、それぞれが自分の場所と捉え安心して過ごしている。テレビは食事中は消し、職員も落ち着いたトーンで話し静かな空間を醸し出している。柱の茶色と壁の白のコンビネーションが明るさを増し、天井も高く開放感がある。照明は電灯のカバーで明るさを調整している。洗面台のある所は天井を低くし、うがいや歯磨き、洗顔、化粧を落ち着いて出来るようにしている。空調と床暖房、加湿器を使い温・湿度計で調整をし、換気は朝夕に行っている。利用者の作品を廊下の一部やリビング、玄関に飾り、利用者との話題の一助にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外に一人になれる空間がないような広くないホームであるが、リビングや居室の前に、くつろぐスペースを設けている。思い思いの場所で過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームで提供している家具を利用している場合が多いが、なじみのあるものを持参してもらうようお願いしている。	居室は木製の引き戸で、半分ほど開けたままの利用者も多く、居室で書き物をしたり、居室の前の空間で過ごされている。ベッドや家具類は施設のものを使っている方が多いがADLに合わせてベッドを持って来られる方が増えている。馴染みの家具を持ってきて貰える様には声かけをしている。大きいテレビや娘の作った人形や家具の上に写真や小物を飾り、居心地良く過ごせるように工夫をしている。転倒予防のために家具の配置を変える事もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒予防のために、家具の位置を変えたりする場合もある。		